



グローバルリーダーシップ研究所

Institute for Global Leadership

ニューズレター 第17号 令和2年3月
News Letter Vol.17, 2020 March

- ・後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業
- ・学生海外派遣報告、2020年度募集予定
- ・学会派遣報告、2020年度募集予定
- ・リーダーシップ教育の効果検証指標、「お茶大インデックス」、研究者支援と雇用環境整備の調査
- ・アジア女性学会（梨花女子大学）でのパネル発表（2019/12/6・7）
- ・国際日本学コンソーシアム（2019/12/9・10）
- ・コンラート・アデナウアー財団ワークショップ発表（2019/12/11）
- ・日韓3女子大学交流合同シンポジウム（2019/12/19-21）
- ・津谷典子教授講演会（2020/1/10）
- ・ブリヂストン連携
- ・福井県との連携を強化
- ・ヴァッサー大学Elizabeth Bradley学長 講演会（2020/1/10）
- ・オックスフォード大学マートン・カレッジIrene Tracey学長 講演会（2020/1/24）
- ・ソフトスキル習得プログラム「イタリア短期研修」（2020/2/19-27）
- ・2020年度徹音塾 春学期本講座のお知らせ
- ・2020年度サマープログラムの予告
- ・2020年度前期開講授業のお知らせ（グローバルリーダーシップ研究所関連）

後期グローバルリーダーシップ研究所関連授業

「ファシリテーション」（火7・8限）

本授業は、対話を通じ、メンバーのベストを引き出し、ゴールに向けてまとめていく「ファシリテーションスキル」を身に付けることを目的としています。受講者はファシリテーションの基本的理論を学んだあと、企業から出された課題にチームで取り組み、企画・提案・解決までのプロセスを学びます。

受講生は10名であり、感想として「理論と実践のどちらも学ぶことができたのがとても良かったと思いました。知識だけを得て終わってしまう授業よりも自分に残るものが多くあったと思うし、ファシリテーターのスキルを学んだという実感も持つことができました」「実際に企業で働いている先生の話はいつもハッとするような、素直に納得してしまうような話ばかりでどれもとても印象

に残っています」「普段ならば、先輩（特に初対面の先輩）と同じ場にいたら、かしこまったり先輩ファーストにしたりと気を遣うのですが、この授業では同じグループにいた先輩にも、良い意味で気を遣わず、のびのびと意見が言えました」などを得ました。

講義に対する満足度も高く（とても満足、満足の回答100%）、本講義を「今後とても役に立つ」、講義を通じて「考え方や行動が変わった」と回答した学生が多数みられました。本講座の受講により、受講者たちはグループ力を最大化し、一人では決して到達できないレベルの成果を出し、多様な人々と協働するスキルを身に付けることができました。

授業担当：内藤 章江（グローバルリーダーシップ研究所 特任リサーチフェロー）

2019年度後期大学院共通科目「アカデミック女性リーダーへの道（実践編）」

今年も大学院共通科目「アカデミック女性リーダーへの道（実践編）」（1月28日、2月6日、2月12日、2月14日）を開催しました。この授業は、大学院生（博士前期・後期）を対象に、日本学術振興会（JSPS）特別研究員の申請準備や研究費獲得に役立つプレゼンテーションスキルに関する実践的な授業です。

1日目は日本学術振興会（JSPS）特別研究員等の審査委員経験のある本学教員や本学等に在籍するJSPS特別研究員から経験談を伺いました。各先生、研究員の講演では、出席者から多くの質問が出て、活発な質疑応答となりました。2日目は事前に作成した特別研究員応募書類を基に、参加者に対する個別指導を行いました。3日目は池田まさみ十文字女子学園教授が担当し、プレゼンテーションスキルに関する講義と参加者によるショートプレゼンの実践、講師のフィードバックが行われました。4日目は3日目の内容を踏まえて、模擬審査形式のプレゼンテーション実践を行いました。受講者からは、「学振申請だけでなく、もう少し長期のキャリアの話まで考えるきっかけとなりました」「是非友人にもすすめたいです」「受講生のプレゼンテーションに対し、先生方が改善策を具体的に教示するというBefore/Afterを見ることができ、多くの学びを得ることができました」といった感想が寄せられました。



アカデミック女性リーダーへの道（実践編）
授業の様子

授業担当：大木 直子
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

「キャリア開発特論（基礎編）」

1月18日～2月1日の毎週土曜日、大学院生向けのキャリア科目「キャリア開発特論（基礎編）」が実施されました。「ポストドクター・キャリア開発事業」の成果の学内定着として、大学院生を主たる対象に、グローバルリーダーシップ研究所が主催者となって開講しているものです。

この科目は、アクセンチュア株式会社の協力のもと、座学や社会人との座談会を通じて仕事やキャリアについて学び考え、グループワークを通じて社会で活躍するためのスキルを実践的に学ぶもので、アクセンチュア本社他、アクセンチュアの施設で行われました。授業の企画運営には本学卒業生を含む同社社員が献身的に携わってくれました。

事前の広報が功を奏したのか、履修者が23名、その他に聴講者が10名と、昨年度より多くの学生が参加しました。毎回朝から夕方までのタイトなスケジュールでしたが、受講者は濃密な時間を過ごし、これからのキャリア形成を考える大きなヒントを得たと思います。

授業の実際については、報告書等を参照していただくとして、毎回提出してもらったコメントペーパーから一部を紹介しておきます。

「ライフジャーニーを通して自分自身の人生におけるターニングポイントを可視化することで、自分自身の価値観や考えが以前よりも明確になりました」「自分と相手の認識を共有する大切さ、相手への伝え方（ロジカルな思考）、自己開示とポジショニングの三点が、私の中でとても心に響き、今後意識してみようと思いました」「組織の構成や事業部をベースに新規事業を考えたのは私にとって新鮮でした」「社員の方々のキャリアプランシートを拝見し、学生と社会人の視点の違いや共通点が分かり、今後自身の将来のキャリアを考えていく上で、非常に参考になりました」。

なお、この科目同様、アクセンチュアの協力で実施している「グローバル女性リーダー特論（応用編）」は新型コロナウイルス流行の影響で、今年度は開講しないことになりました。

授業担当：宮尾 正樹
（グローバルリーダーシップ研究所 教授）

学生海外派遣報告、2020年度募集予定

当研究所「学生海外調査研究」事業では、2010年から、海外における文献や資料の調査、フィールド・ワーク、新しい研究手法の修得などを対象に、本学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程に在籍する学生を支援しています。

2019年度は3名の学生を派遣しました。日本では入手が困難な一次資料の調査・収集、実験とデータ解析など、博士論文執筆につながる貴重な調査や実験を、各人が現地にて行いました。

派遣学生からは、「今後は本調査を踏まえ、さらにモリゾとロココ芸術の関連についての研究を深め、また併せてモリゾと同時代の女性画家の作品、批評を分析し、博士論文の一部に取り入れる予定である」「本海外調査研究は、博士論文を詳細にするだけではなく、その後の研究内容を展望できるものとなった。また、現地で活躍する女性研究者と面会できたことは、執筆者にとって大き

な刺激となった」「各国の博士課程学生と代表的なバルトーク研究者らの発表により、近似の主題を扱う最新の研究動向はもちろん、その課題やバルトークのピアノ作品全体を見通す上での重要な知見も、同時に得ることができた」等の、充実した調査研究だったことが窺われる感想がありました。

採択者による報告書は、当研究所ホームページ（<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/leadership/groupingmenu/training/d007039.html>）に公開しています。

また、2020年度も同様の募集を行う予定です。詳細は決まり次第当研究所HPに掲載いたします。

文責：西澤 千典（グローバルリーダーシップ研究所
アカデミック・アシスタント）

2019年度「学生海外調査研究」採択者一覧

採択者	主な調査先	研究内容
川口 裕加子（比較社会文化学専攻）	パリ（フランス）	ベルト・モリゾが描いた1890年代の作品における象徴主義的な特徴についての調査
浅井 香奈江（理学専攻）	ジュネーヴ（スイス）	LHC-ATLAS実験におけるウィークボソン散乱過程を用いたレプトンフレーバーの破れの探索
木村 優希（比較社会文化学専攻）	ブダペスト、トカイ（ハンガリー）	バルトークによる1926年の自筆資料調査及びトカイ収穫祭における民俗音楽の現地調査

学会派遣報告、2020年度募集予定

当研究所では、国際的に活躍する女性研究者の育成および、グローバル女性リーダー育成研究機構の重点研究領域（リーダーシップ、男女共同参画、ジェンダー、日本学、国際協力等）の研究成果の発信を目的として、本学のポスドク研究者、大学院博士後期課程学生の国際学会での発表に対して支援しています。

2019年度は1名のポスドク研究員を採択しました。発表タイトルや学会名などの一覧は下記の通りです。

採択者からは「さまざまな研究者と議論することで今後に展望が開かれた実感がありました」

「国際学会において発表することの意義深さを改めて認識することとなりました」といったコメントが寄せられました。

報告書は、当研究所ホームページ内（<http://www.cf.ocha.ac.jp/igl/j/menu/leadership/groupingmenu/training/gakkai2019.html>）に公開しています。

2020年度も同様の募集を行う予定です。詳細が決まりましたら、当研究所HPに掲載いたします。

文責：小林 敦子（グローバルリーダーシップ研究所
アカデミック・アシスタント）

2019年度国際学会派遣者一覧

派遣者名	所属	発表タイトル・発表形式
渡航期間	学会名・分科会名・場所	
洲崎 圭子	基幹研究院	Beyond cultural diversity – The case of migrant Japanese women writers (口頭発表)
2019/10/17~10/26	Western Conference of the Association for Asian Studies, 2019	
	Contemporary Women's Literature in Japan	
	El Colegio de México, Mexico city, Mexico	

リーダーシップ教育の効果検証指標、「お茶大インデックス」、研究者支援と雇用環境整備の調査

リーダーシップ教育の効果検証指標の作成

当研究所が推進しているプロジェクト「リーダーシップ育成プログラムの開発・実践と教育効果検証指標の開発・活用」では、本学キャリアデザインプログラム（以後CDPと表記）におけるリーダーシップ養成教育科目（当研究所所属教員が担当）の効果測定と学生自身の成長と課題を把握するための指標開発を推進しています。CDPにおけるリーダーシップ養成教育科目の効果測定は、これまで授業開始時と授業終了時の計2回、紙媒体を用いて測定していましたが、2019年度は本学の学修ポートフォリオシステム「super alagin」に評価項目を組み入れ、2020年4月からの本格実施を目指した準備を進めています。これにより、本学の学生はリーダーシップにかかわる能力の養成状況をコンピテンシー評価や学修ポートフォリオ、学修状況とともに確認できるようになります。

教育研究機関における雇用環境調査指標「お茶大インデックス」を用いた調査

本学では、2010年度より教育研究機関における雇用環境調査指標「お茶大インデックス」を用い

た調査を全国の女性研究者支援事業実施機関を対象に例年実施しています。この「お茶大インデックス」は、教育研究機関における雇用環境の自己評価指標であり、本学の「女性研究者支援モデル育成」事業（2006年度～2008年度）の成果の一部として開発したものです。国内における教育研究機関の自己評価結果を継続的に計測・蓄積することにより、全国における雇用環境の経年変化を把握でき、支援活動計画時における有効な資料となります。2019年度の調査を2020年1月に実施し、現在各機関に回答をいただいているところです。結果はIGL年次報告書やIGLホームページにて公表・報告します。

本学における研究者支援と雇用環境整備の調査

本学における研究者支援と雇用環境整備の現状と経年変化を見るために、常勤の教職員を対象に年1回の調査を実施しています。2019年度の調査は2019年12月に実施しました。結果はIGL年次報告書にて報告します。

文責：内藤 章江（グローバルリーダーシップ研究所 特任リサーチフェロー）

アジア女性学会（梨花女子大学校）でのパネル発表（2019/12/6・7）

Asian Association of Women's Studies（アジア女性学会）はアジア各国・地域の研究者や実務家、女性学会や研究機関、調査機関などの組織を結びつけた学際的な国際学会であり、第5回研究大会は2019年12月6-8日に韓国梨花女子大学校にて開催された。グローバルリーダーシップ研究所からは、佐々木機構長、岡村IGL特任講師、大木IGL特任講師が参加した。梨花女子大学校との共同研究プロジェクト“Asian Women Leadership Model & Index Development”（アジアにおける女性リーダーのモデル構築とインデックス開発）のメンバーによるパネル発表“Women Leadership Model in Asia: Comparative Gender Perspective”、グローバル女性リーダーシップに関する学際的研究プロジェクト“Redefining Global Women's Leadership Project”のメンバーによるパネル発表“Women's Leadership and Participation in Politics and Economics in Japan”がそれぞれ行われ、登壇者と聴衆との間で活発な意見交換がなされ、両パネルとも盛会のうち終了した。

文責：大木 直子
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）



パネル発表（岡村IGL 特任講師）の様子



パネル発表（大木IGL特任講師）の様子

国際日本学コンソーシアム（2019/12/9・10）

2019年12月9日（月）・10日（火）に比較日本学教育研究部門が主催する第14回国際日本学コンソーシアムが開催されました。

国際日本学コンソーシアムは、世界の日本学研究の拠点である大学から教員および大学院生を迎えて、国際的・学際的なジョイントゼミを行い、日本学研究および教育の世界的ネットワークを構築するものです。今回は「グローバル化と日本学II」をテーマに据えました。今年度は、北京外国語大学北京日本学研究センター、南カリフォルニア大学、パリ大学（旧パリ・ディドロ大学）、国立台湾大学、カレル大学、ワルシャワ大学、一橋大学からご参加いただきました。

1日目の午後は、日本文学部会が開かれ大村咲希氏（本学院生）の司会により、羅小如氏（本学院生）の「泉鏡花『黒百合』再考」、時新昊氏（国立台湾大学院生）の「日本古代における女性の恋愛観—『万葉集』の女性歌人を中心に—」、ヴォザール・マテイ氏（カレル大学院生）の「『奥の細道』における歌枕の描写とその有無についての考察」、朱秋而氏（国立台湾大学教授）の「岡本花亭と李明五一朝鮮通信使との交流をめぐって—」、ヴェベル・ミハエル氏（カレル大学准教授）の「『深い河』—遠藤周作の再発見」、范淑文氏（国立台湾大学教授）の「真杉静枝と温又柔の比較研究の試み—グローバル化を視座にして—」のご報告がありました。

2日目午前の日本文化部会は、原基香氏（本学院生）の司会のもと、ジリアン・バント氏（南カリフォルニア大学院生）の「平安時代の教育史を考え直す：藤原頼長の学問について」、グレン・イエンジェイ氏（ワルシャワ大学准教授）の「島井宗室(1539-1615)に関する史料に見える武士との

関係とその意味」、世川祐多氏（パリ大学院生）の「近世後期の江戸における武家の養子と身分～滝沢馬琴を事例に～」、馬場幸栄氏（一橋大学助教）の「東京女子高等師範学校における天体暦計算動員の概要と背景」、トゥロフスカ・アグニェシカ氏（ワルシャワ大学院生）の「都市祭礼と神事としての佐原の大祭—変貌する町とイベント—」、潘蕾氏（北京外国語大学准教授）の「グローバル化時代の日本学研究—中国の日本文化研究を中心に—」について研究報告が行われました。午後は、池田來未氏（本学院生）の司会で日本語学部会が開かれ、クルボノヴァ・ムニラ氏（本学院生）の「美容誌における外来語の特徴」、李月明氏（北京外国語大学院生）の「日中数量類別詞の範疇化機能の対照研究」と二人の院生による研究発表があり、続いて開催された日本語教育学部会では、チャニカー・チッタラーラック氏（本学院生）の司会で伊藤聖子氏（早稲田大学日本語教育研究センター）の「口頭産出と作文産出における主題化の違い—I-JASにおけるST・SWを対象に—」、マルタ・トロヤノフスカ氏（ワルシャワ大学院生）の「『言語における世界観』の利用—ポーランド語母語話者を対象とした丁寧語の効果的な習得方法について」、大島弘子氏（パリ大学准教授）の「グローバルな認識とローカルな実践—フランスの日本語教育の視点から—」のご報告がありました。最後の全体会では、研究分野を超えた議論が展開されました。今年度も学内から多くの方にご参加いただき、国際的・学際的なジョイントゼミを行うことができました。

文責：加藤 絵里子（グローバルリーダーシップ研究所
アカデミック・アシスタント）
芹澤 良子（同 アカデミック・アシスタント）

コンラート・アデナウアー財団ワークショップ発表（2019/12/11）

12月11日（水）、コンラート・アデナウアー財団（以下、KAS）東京事務所主催のSocial Economic Policies Asia（以下、SOPAS）2020-2022 Cycle Inception Workshop and Program Launchに、佐々木泰子グローバル女性リーダー育成研究機構長、大木直子グローバルリーダーシップ研究所（IGL）特任講師、岡村利恵IGL特任講師、石井クンツ昌子ジェンダー研究所所長の4名が参加した。SOPASのテーマは3つあり、「女性リーダーシップ」、「AIとデジタルイノベーション」、そして「自由貿易協定」である。期間としては1日で、3つのテーマでそれぞれセッションが企画され、参加者は台湾、香港、ベトナム、インドなどの政治学や経済学の専門家、実務家が多かった。SOPAS最初のワークショップである「女性リーダーシップ」のセッションで、佐々木機構長は主にお茶大のリーダーシップ教育の取組について報告し、大木特任講師は政治分野における女性のリーダーシップ、岡村特任講師はビジネス分野における女性のリーダーシップについてそれぞれ研究成果を報告した。それらの報告を石

井クンツ教授が政府の数値目標等にも触れながら、ジェンダーの視点で整理した。

各自の発表が終わりQ&Aのセッションに移ると参加者の手が一斉に上がり会場が大いに盛り上がった。日本そしてアジアにおける女性のリーダーシップへの関心の高さがうかがえた。フロアからは、「女子大学の存在意義とは何か」「女性活躍省設置の必要性を感じるか」「高校や大学等でキャリアカウンセリングの機会はあるのか」等の質問があった。セッションが終わってもなお、昼食会場へ移動している間や昼食の間も、参加者それぞれの国の女性のリーダーシップに関する状況について意見交換し、世界各地の研究者や実務家とネットワークを深めることができた。海外の研究機関との連携を構築・強化するという点において、今後の本機構の活動にとっても大変意義のあるワークショップ開催となった。

文責：岡村 利恵
（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

日韓3女子大学交流合同シンポジウム（2019/12/19-21）

研究開発活動のグローバル化が進む中で、科学技術開発に携わる多くの活動が、日本国内だけで進めることが難しくなってきたとされており、特に我が国の場合は、アジア諸国との協力は日常的になってきている。そこで、国際的なリーダーとなるべき人材の育成の一環として、梨花女子大学（韓国）、日本女子大学、および本学の日韓3女子大学が協力して、理系学生の研究交流合同シンポジウムを毎年開催している。

本シンポジウムは今回が第10回記念であり、過去10年間で初めて東京での開催となった。昨年度までは韓国梨花女子大学で開催されていた。今回のシンポジウムでは、教員代表の特別講演が4件、口頭発表が33件、ポスター発表が45件あった。学内外から80名を超える学生および教員に参加いただき、大きな問題もなくシンポジウムを開催することができた。初日は教員による基調講演と、その後に歓迎会、2日目は数学・統計学・情報科学・物理学、化学・生命科学の2つのセッションにわかれた口頭発表および教員による基調講演、

3日目はポスターセッションがおこなわれた。学期中ということもあり、全日程を通しての参加は難しくとも、できるだけ都合をつけて聴講に来た参加者も多く見受けられた。3日目のポスター発表では、日韓の学生および教員が各自のポスターの前で議論している様子が、あちらこちらで見受けられた。

今回のシンポジウムでは、例年通り、学生間の交流と各自の研究を英語で他分野の研究者に紹介することを目標としてきた。本学の学生たちは、事前に英語プレゼンテーションの授業を受講し発表練習を行っており、口頭発表での質疑応答ができるようになっていた。学生たちにとっては、研究成果発表のみならず、梨花女子大学および日本女子大学の学生との交流から得たものは大きかったと思う。今回の経験が、各自のキャリアパスを考える糧になってくれれば幸いである。

文責：工藤 和恵（基幹研究院 自然科学系 准教授）



津谷典子教授講演会（2020/1/10）

お茶の水女子大学ーブリヂストン連携「未来起点ゼミ」&「女性活躍促進連携講座」共同主催で、2020年1月10日津谷典子教授（慶應義塾大学経済学部教授、同経済学研究所の所長）の講演会が開催されました。タイトルは「日本の低出生率：パターンと要因と政策的対応」です。

講演では、戦後日本の出生率変動のトレンドとパターンを示され、現在の少子化と政策的対応について、統計データのグラフや表を使って解説がなされました。日本の婚姻率の低下、女性の高学歴化に加え、女性の就業スタイルの主流が雇用労働者であること、ワークライフバランスが取りにくいこと、ノルウェーなど諸外国と比較して日本は家庭内のジェンダー平等が遅れていることなどを指摘されました。加えて待機児童の問題など育児サービスの慢性的不足の解消につながる家族政策は、差し迫った課題で

あるとお話しされました。最後に、学生が社会に出て仕事を持つなど今後のライフコースを考える上で参考にしていただけると、学生にエールをいただきました。

講演後の質疑応答では、学生や社会人、教員からもたくさんの質問が寄せられました。

【津谷典子教授講演会

お茶の水女子大学ーブリヂストン連携「未来起点ゼミ」&「女性活躍促進連携講座」主催】

日時：2020年1月10日(金) 16:40～18:10

場所：国際交流留学生プラザ2F

参加人数：約60名

文責：佐野 潤子

（グローバルリーダーシップ研究所 特任講師）

株式会社ブリヂストンと本学は、未来の女性リーダーの創出を狙い、社会連携講座「未来起点ゼミ（大学院では未来起点研究）」を2019年度より開講しました。2020年1月23日、1年間の学びの集大成として、第一回「未来起点フォーラム」を開催しました。

ゼミは附属高校生から全学部の大学生、大学院生が参加し、4月の開講から前期、後期を通して、自分の願望を探求し、2030年になりたい自分と実現に向けてのエコシステムを考案し、フォーラムで提言することを目標に学んできました。

フォーラムの発表形式は受講生で話しあい、参加者とより対話しやすいブース形式を選択しました。その他、ポスター制作、お客様のご案内なども学生が主体となってフォーラムを運営しました。

当日は学内、学外合わせて50名にご参加いただきました。発表内容は社会問題、教育、家族関係など多岐にわたり、自作の小説の発表をする学生もいました。参加者との距離が近く、各ブースでたくさんの対話が起こり、笑いあり、時に涙ありと、活発な意見交換ができました。

会場のお客様からは「未来像を描かれている点が次の行動につながると感じた」「高校生も含め、堂々と最終プレゼンをしていたことは、非常に印象的だった」など貴重なご感想をお寄せいただきました。



た。この経験を励みに、来年度も未来起点ゼミは附属高校生とお茶大生の未来を語る場として、多くの学生の参加を期待しています。

【第1回「未来起点フォーラム」】

日時：2020年1月23日(木) 16:40～18:10

場所：人間文化創成科学研究科棟604室

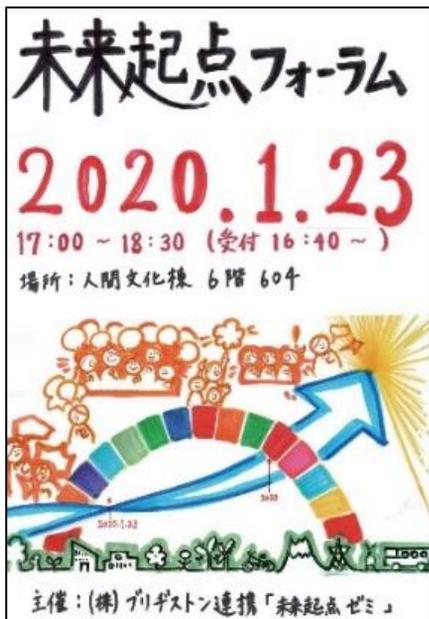
内容：個人の願望をベースとした2030年までに実現したいこととその道筋についての発表

参加人数：50名

文責：佐野 潤子

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)

テーマ名
幼い頃から、障害を持つ子と一緒に学び合える環境を
学びのある遊び場を創る～幼児期から学童期の子どもに向け、コミュニケーションや課題発見／解決を体験できるテーマパーク創り～
教育からLGBTsを顕在化する～『画面の向こうの存在』から『私の隣人』へ～
自分の子供・孫世代にも、とれたてまるごと野菜の感動を味わってもらいたい！～空き地を『おじいちゃんの畑』にする価値の提言と方法の提案～
「明日もなんとかなる、と思えるまちをつくりたい。」だと思っていた～私が「作家になりたい」と気づくまで～
学校の先生にもっと学びの時間を！～教育NPOとして多忙化の具体的な課題を洗い出し、先生の助けとなる行動を起こす～
私はもっと性を生きていい～フェムテックの世界に魅せられて～ミライの化粧を考える～今、刷新すべき「自分の顔」との向き合い方～
気軽に相談可能な世の中へ～美容院とカウンセリングをつなぐ～
日本をどうしたいの？～全ての政治家の考えを可視化し、比較できるウェブサイトの運営から、人々の投票行動へつなげ、政治に市民の声を届けるプロジェクト～
母親が穏やかな最期を迎えるには？



福井県との連携を強化

お茶の水女子大学と福井県は2012年1月21日に女性リーダー育成のための相互協力協定を締結し、これに基づき、本学は福井県による県内社会人女性のキャリアアップを目的とした研修プログラム「未来きらりプログラム」の策定・実施に参画している。

2019年4月26日に開催された「未来きらりプログラム」の開講式では、小林誠グローバルリーダーシップ研究所長があいさつを行い、大風薫学生・キャリア支援センター准教授が「キャリアデザイン」の講義を行った。7月3日と10日には「未来きらりプログラム」の受講生（以下「受講生」という。）が「お茶の水女子大学論」のロールモデル講演会を聴講、11月19日と12月10日には受講生が「女性のキャリアと

経済」を聴講し、聴講後の講師との懇談会では、女性が働き続けることの課題などを話し合い、講師からアドバイスをいただいた。また、7月10日には本学学生と受講生との交流会も開催し、地元で働くこと、働くことの楽しさ・苦勞など直接聞くことができ、学生にとっても有意義な経験となった。

このほか、2019年度から福井県の女性の生活の質の向上に向けた共同研究を開始し、2020年2月5日には新たに共同研究に関する事項を盛り込んだ相互協力協定を締結するなど、ますます連携を強化している。

文責：本橋 直美（企画戦略課 男女共同参画担当 副課長）



「未来きらりプログラム開講式」の様子
（2019年4月26日 福井県庁にて）



「お茶の水女子大学論」ロールモデル講演会
講師との懇談会（2019年7月10日 本学にて）



相互協定締結式後の記念撮影
（2020年2月5日 本学にて）

ヴァッサー大学Elizabeth Bradley学長 講演会（2020/1/10）

本学の協定校である米国のヴァッサー大学 Elizabeth Bradley学長の講演会を1月10日（金）に本学国際交流留学生プラザで開催し学生・教職員95名が参加した。Message from President for Future Leaders(学長から未来のリーダーへのメッセージ)シリーズの一環としてBradley学長には“ Rethinking of Leadership Conception-Through the Experience of Leadership Practices and Education”（邦題：リーダーシップの本当の意味を考えるー実践・教育者として伝えたいことー）というテーマでご講演頂いた。また、講演の様子はCOIL（Collaborative Online International Learning）の連携先である上智大学にも同時中継

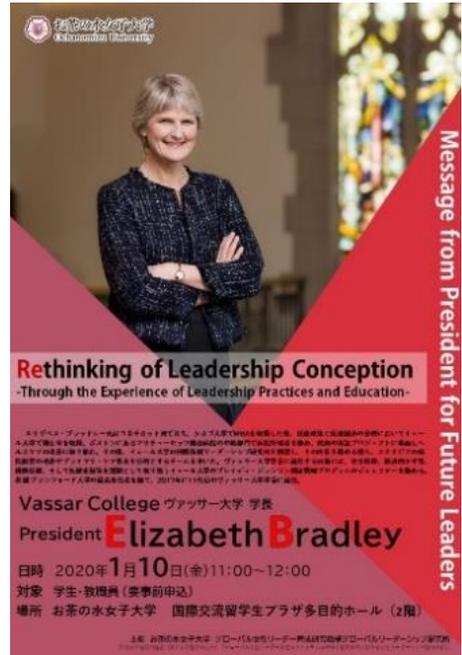
された。

Bradley学長は大学に限らずエチオピアでプライマリ・ケアの普及を率いるなど医療政策・医療経済の分野でリーダーとしての豊富なご経験をお持ちで、ご講演ではデータとともに医療に関わる人々のリーダーシップを高めることが患者の死亡率低減につながる、多様な社会でよりよいリーダーシップのためには個人主義と集団主義を絶えず循環させていくという視点が重要である等を示された。質疑応答では専攻や進路について悩む学生に向けて「常に好奇心を持ち続けることの大切さ」について触れ、励ましのメッセージを贈って下さった。

学生からは「世界は常に変化しているため、さまざまなことに興味を持って知識を増やすことが将来役に立つというお話が印象に残った」「リーダーになれるかどうかは、その人の生まれ持った資質によって決まるのではなく、好奇心を持って色々なものを見て吸収することによって決まるといった話が印象的だった」等、講演後に多くのフィードバックが寄せられた。Bradley学長のご講演から学生は多くの学びと将来へのメッセージを受け取った。

文責：岡村 利恵

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



オックスフォード大学マートン・カレッジIrene Tracey学長 講演会 (2020/1/24)

2020年1月24日(金)に英国オックスフォード大学マートン・カレッジのIrene Tracey学長の講演会を本学国際交流留学生プラザで開催し、学生・教職員122名が参加した。オックスフォード大学は世界の大学ランキングで連続して1位に選ばれており、ハーバード大学、ケンブリッジ大学、スタンフォード大学などと並ぶ世界有数の名門大学である。オックスフォード大学には30以上の異なるカレッジ(アカデミック・コミュニティ)が存在しており、中でもマートン・カレッジは世界の王室・皇室関係者の留学先として選ばれる由緒あるカレッジとして知られている。

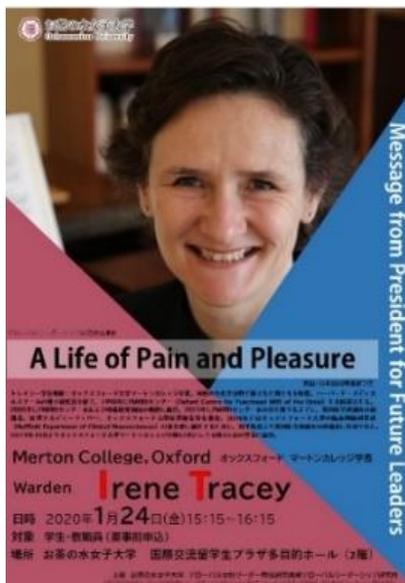
講演者のIrene Tracey博士は神経科学者であり、マートン・カレッジの第51代目にして2人目の女性学長である。Tracey学長には、ニューロイメー

ジングと呼ばれる神経の可視化技術を用いると人間の痛みの知覚はどのように理解することができるのか「痛みの科学」について、そしてリーダーシップに係るご自身の経験についてご講演頂いた。Tracey学長はまず冒頭で我々人間が感じる「痛み」とは何かについてわかりやすく解説下さった。痛みとは人間に備わる防衛反応の一種で身体にダメージが生じていることを知らせる大切な知覚であり、その神経伝達は個人によって異なることが神経の可視化技術からもわかっていると実際の神経画像とともに説明下さった。さらにTracey学長が1998年に共同で設立し、2005年からセンター長を務めたFMRIBセンター(Oxford Centre for Functional MRI of the Brain)についてもその設立の経緯等をご紹介下さった。

リーダーシップに関わるご自身の経験やキャリアについても、最初にご自身の経歴を紹介されたあとに、表向きには現れない様々な葛藤について、明るくユーモアを交えて話されているのが印象的であった。リーダーシップに話が及ぶと、仲間を信頼し拒絶を恐れずにリスクをとる覚悟で一か八かやってみる、という力強いメッセージで本学の学生を勇気づけて下さった。

文責：岡村 利恵

(グローバルリーダーシップ研究所 特任講師)



ソフトスキル習得プログラム「イタリア短期研修」 (2020/2/19-27)

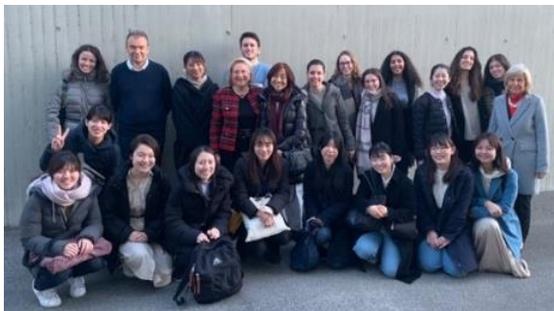
2019年度から本学の「キャリアデザインプログラム」基幹科目既修の2年生以上の学部生を対象に、本学協定校パヴィア大学女子カレッジ、コッレージョ・ヌオーヴォの女性リーダー育成の観点から設立された「ソフトスキル養成コース」へ2週間派遣し、本学で学んだ基礎を応用しながら、ソフトスキルに基づくリーダーシップ習得を目指す「イタリア短期研修」を実施しました。

2019年4月に説明会を開催、参加希望者を学内募集し、学内審査を経て派遣学生を10名選出しました。前期は8月7日～8日実施の「OCHA×PAVIA Summer Symposium」に向けた準備、後期は現地研修に向け英語による授業を実施しました。又、学内外で開催のイベントやシンポジウム参加も積極的に行いました。

現地研修では、2月20日開講式でBernardi学長から「イタリアにおける男女のキャリア」、佐々木理事・副学長から「GGIから見える日本の男女平等」についてお話があり、本学学生からは自己紹介と日本文化紹介が行われ、現地学生から質問が相次ぎ、活発な意見交換が行われました。現地学生によるキャンパスツアーも行われました。翌日から、Caterina Farao講師によるインタラクティブな授業

が行われたり、Anna Malacrida教授による特別講演では、蚊とハエの研究に関する説明やネットワーク構築の大切さについて話を伺ったりしました。週末はミラノでフィールドスタディーを実施し、3班に分かれた学生は、現地学生と共にミラノ発祥のものについて取材しました。26日以降はイタリア北部での新型コロナウイルス感染拡大のため、研修は中断され帰国することになりましたが、学生からは、「授業を通じてソフトスキルが単なる曖昧なものではないことを実感した。(中略)これから自分の人生を作る過程で、何が自分にとって心地いいのか、何が苦手なのかがよりクリアになった」「自分の学びの姿勢について、今まですごくパッシブ(受動的)で自分の意見や考えの部分が空っぽであったことに気付いた、今回の研修で自分の軸、ビジョンをもつこと、そして自分の考えを持つことの重要性を学んだ」とより多くの学びを得られたようでした。尚、2020年度も4月に本プログラムの説明会を予定しています。詳細は、当研究所HPをご確認ください。

文責：松田 デレク
 (国際教育センター／グローバルリーダーシップ研究所 講師)
 長塚 尚子
 (グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー)



日付	時間	内容
2月19日 (水)	10:55 19:35	成田空港発 イタリア・リナーテ空港着
2月20日 (木)	10:00 14:30	開講式 開会の挨拶 (佐々木理事・副学長) 両大学の紹介 (Bernardi学長/佐々木理事・副学長) オリエンテーション 学生による日本文化紹介 キャンパス・ツアー
2月21日 (金)	09:30 15:00	ソフトスキル授業(1) Caterina Farao講師 ・ソフトスキルとは? ・自己認知とは?/リーダーとは? パヴィア大学Anna Malacrida教授による講演会 /ラボ見学
2月22日 (土)	10:00	課外活動(於 ミラノ) ミラノ発祥のものを取材する
2月23日 (日)		自由時間
2月24日 (月)	09:30 15:00	ソフトスキル授業(2) Caterina Farao講師 ・前回の復習 ・自分自身の弱みと強みとは? ・ローカスオブコントロール (LOC) とは? 参加学生のみでの議論/授業内容の確認
2月25日 (火)	09:30 15:00	ソフトスキル授業(3) Caterina Farao講師 ・前回の復習 ・リーダーとマネージャーとの違いとは? ・リーダーの素質 ・コミュニケーション能力 (プレゼンテーション) ソフトスキル授業(4) Caterina Farao講師 ・プレゼンテーションの実践 ・グループワーク
2月26日 (水)	08:30 09:50	振り返り(於 リナーテ空港) リナーテ空港発
2月27日 (木)	09:10	成田空港着

2020年度徽音塾 春学期本講座のお知らせ

「お茶大女性ビジネスリーダー育成塾：徽音塾（きいんじゅく）」の、5月から6月の間に開催する講座のお知らせです。

お申込、詳細はHPをご覧ください。パンフレットがご入用の場合は無料でお送りします。皆様のお申込をお待ちしております。

◆ 5月講座

『女性のエンパワーメントとリーダーシップ』

- 5/9 笠松 千夏氏（味の素株式会社食品事業本部食品研究所 エグゼクティブスペシャリスト）
- 5/16 角田 仁美氏（NTTデータ 法人コンサルティング & マーケティング本部 コンサルティング & マーケティング事業部 課長）
- 5/23 横田 響子氏（株式会社コラボラボ代表取締役、お茶の水女子大学客員准教授）
- 5/30 近藤 美樹氏（Value & Vision LLC 執行役員 人材育成・組織開発コンサルタント）

徽音塾HPトップ



◆ 6月講座

『リーダーシップ実践
／異文化コミュニケーション』

- 6/6、13 高田 朝子氏（法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授、同グローバルMBAプログラムディレクター）

- 6/20、27 吉田 友子氏（慶應義塾大学 商学部 教授）

文責：林 有維（グローバルリーダーシップ研究所 特任アソシエイトフェロー）
森 暁子（同 特任アソシエイトフェロー）



2020年度サマープログラムの予告

2020年度お茶の水女子大学サマープログラムは、6月13日～6月28日に開催します。（夏季オリンピック・パラリンピックの東京開催を受け、2020年度の開催のみ6月となります。）2020年度も本学海外協定校等から多様な国の留学生を受け入れ、本学学生も履修できる本プログラムでは、日本人学生と留学生が共に学び、協働する経験を提供していきます。本学サマープログラムは日本語コースと社会文化コースの2つのコースから構成されています。日本語コースは留学生対象のコースで、日本語学習初心者から1～2年の学習歴のある学生が参加できるように初心者・初中級・中級コースの三つのレベルの少人数クラスを設置しています。社会文化コースでは、3つの専門コース（Trans-border Issues in Japan、Lifestyle in Japan、Natural Science and Technology）のフィールドスタディーを含む講義とプロジェクトワークが履修できるコースとなっています。3つの専門コースでは、英語を教える授業と違い、各コースの専門教員がテーマに沿った授業をオムニバス形式で行います。プロジェクトワークは「グローバルリーダー」をテーマに、本学の海外協定校参加者とグループに分かれ共同作業をしながらプロジェクトワークを行っていく授業です。長期留学等を考えている学生が、留学前に英語で勉強

し海外留学生との学術的な交流ができる機会を創出していきます。授業だけでなく、文化交流活動や特別講演会等も企画しており、一般向けに開催される講演会も行う予定ですので、是非多くの方にお越しいただければと思っています。

文責：松田デレク
（国際教育センター/グローバルリーダーシップ研究所 講師）

**Ocha Summer Program
for Global Leaders**

お茶の水女子大学サマープログラム2020
June 13 – June 28, 2020*
- Culture and Society course
- Japanese Language course

*Please note that Ocha Summer program is usually held in July every year but 2020 program will be held exceptionally during the above period June 13 June 28 2020. This is due to the Summer Olympics, which will be held in Japan from July to August. Thank you for your understanding in advance.

Main gate of Ochanomizu University illustrated by Mr. Chihiro Tanaka

2020年度前期開講授業のお知らせ（グローバルリーダーシップ研究所関連）

グローバルリーダーシップ研究所では、2020年度前期に以下の授業の開講を予定しています。
 学生の皆さんの積極的な受講を歓迎します。 *入学年度によって科目コードが異なりますので注意してください。

授業名	開講時期	内容
お茶の水女子大学論 [20A0019]（学部）	水曜 9・10限	お茶大の歴史を学び、お茶大の今を知り、自らの未来を描くための授業です。以下4つの要素から成り立ちます。 <ul style="list-style-type: none"> ・学長によるオリエンテーション ・お茶大の歴史、お茶大生の特徴、学内の各種プログラムを知る ・お茶大卒業生のロールモデルから学ぶ ・お茶大講演会で学ぶ
パーソナル・ブランディング [20N0091] / 女性リーダーへの道（入門編） [20N0002]（学部）	火曜 7・8限	「人の記憶に残る自己発信」を可能にする「パーソナル・ブランディング」について学びます。実践する場を通じて「個」を磨き、コミュニケーション力の向上をはかります。
女性のキャリアと法制度 [20N0094] / 働く女性の権利と地位 [20N0012]（学部）	水曜 5・6限	ジェンダー視点から「女性の労働」や現代のライフコース選択に関わる様々な問題について分析・考察し、働く女性に関する法制度について学ぶとともに、自分自身のキャリア形成について考えます。
グローバル・リーダーシップ実習Ⅰ [20B2099]（学部）	前期 不定期	既修のキャリアデザインプログラムの基幹科目で身につけた、プレゼンテーション、コミュニケーションといったスキルを応用しながら研修に臨み、新たに学ぶ「ソフトスキル」の理念に基づくリーダーシップ・スキルを習得することを目的とします。さらにイタリア・パヴィア大学的女子カレッジ、コッレージョ・ヌォーヴォ学生との交流活動を通して国際的な女子学生ネットワークを構築し、グローバル女性リーダーとしての第一歩を踏み出すことをめざします。
リーダーシップ国際演習Ⅰ [20S0258]（大学院）	前期集中（変更可能性あり、2020年度中に開講予定）	特別招聘教授Cho Sung-Nam先生による授業です。リーダーシップとジェンダーについて学び、理論的分析と実践的知識の両方を理解することを目的としています。講師とゲストスピーカー、チームプロジェクトによる講義に基づき、リーダーシップとジェンダーに関する現在のグローバルな問題の多面的な側面を理解し、問題点を分析して解決する方法を学びます。
未来起点ゼミⅠ [20N0220]・Ⅲ [20N0222]（学部） / 未来起点研究Ⅰ [20S0270]・Ⅲ [20S0272]（大学院）	隔週木曜 9・10限	株式会社ブリヂストンと連携して、未来を創る人材を育成するプログラムです。変化の時代、10年後、20年後の世界は私たちの生活はどう変化しているのか？その変化の下、私たちはどの様な未来を創るのかを学生自身が考えるゼミです。学外の様々な方たちと対話し、未来を描き、私たちが創る未来を提言し、それに向けたアプローチを発表していただきます。多様な方々との対話、自身との対話、提言策定のためのワーク、発表企画力、表現力、リーダーシップが身につきます。